

## 実証試験結果報告書概要版の記入要領（案）

### [ 概要版の目的 ]

本概要版は、地方公共団体、山小屋等のユーザーに実証試験結果を分かりやすく伝え、対象技術の性能について理解頂くことを目的として作成するものです。

### [ 概要版の位置付け ]

本概要版で紹介する内容は、実証試験結果報告書に基づいて作成下さい。結果の詳細については実証試験結果報告書を参照することとします。

### [ 概要版の構成 ]

本概要版の構成は以下のとおりです。

- 1．対象技術の概要
- 2．実証試験の概要
  - 2 - 1．実証試験期間
  - 2 - 2．実証試験場所の概要
  - 2 - 3．実証試験場所の条件
  - 2 - 4．実証対象技術の仕様及び処理能力
- 3．実証試験結果
  - 3 - 1．稼働条件・状況
  - 3 - 2．維持管理性能
  - 3 - 3．室内環境
  - 3 - 4．周辺環境への影響
  - 3 - 5．処理性能
- 4．まとめ

なお、概要版作成にあたっては以下の内容を参考にしてください。

以下の 印番号は、概要版記入用紙に記載しているものと連動しています。

- 1：実証試験要領（第2版）のし尿処理方式分類表（P12）から選択する。
- 2： 公衆トイレなど、トイレに名称が付いている場合は記載する。
- 3：試験場所への物資の搬出入手段（ヘリコプター、人力、車等）試験場所における電力の供給方法（商用電力、自家発電機、自然エネルギー等）水の確保方法（雨水、湧水、沢水等）について記載する。
- 4：この項は、実証申請者自身が記載する。
- 5：処理水を循環する場合は初期水量を記載する。
- 6：対象技術の設計処理能力を記載する。
- 7：対象技術が適切に稼動するための条件（気象条件、利用条件等）を記載する。
- 8：日常管理や専門管理、最終処理・処分の作業性を記載する。
- 9：トイレ室内の温湿度環境やにおい、洗浄ボタンの操作性等、利用者にとっての快適性について記載する。
- 10：洗浄水質や汚泥蓄積状況、し尿の減容化率、または処理可能な人数や容量等について記載する。
- 11：それぞれの項目を実施した結果、作業のしやすさや課題、改善要望内容等について記載する。
- 12：利用者を実施したアンケート結果をもとに利用者意向を記載する。
- 13：し尿処理方式によって実証すべき分類項目は異なる。ここでは、試験計画に則り実証した分析結果の平均値およびデータ範囲、考察を示す。数値として記載できない分析項目は考察の際に考慮する。  
ただし、複数箇所から試料を採取している場合は、快適・衛生性、周辺環境への影響、最終処理・処分場への影響、というそれぞれの視点で最も代表的な試料結果を記載する。例えば循環水であれば、快適・衛生性という視点から、洗浄水に使用する寸前の水（洗浄タンク水等）のデータとする。排ガスであれば、周辺環境への影響という視点から、排気口で採取したデータを示す。汚泥であれば最終処理・処分場への影響という視点から、汚泥搬出場所から採取したデータを示す。
- 14：実証試験結果を踏まえ当該技術に関する総括的なコメントを記載する。特に実証申請者が提示する性能表示に対する考察を中心に記載する。その際の視点としては、稼動条件・状況、維持管理性能、室内環境、周辺環境影響、処理性能、とする。